

ごみの量を減らそう

蒔苗郁人

1. 研究の目的

本研究では、「ごみの量を減らそう」というテーマを設定し、その方法を検証した。以前から青森県はごみの量が多いこととリサイクル率が低いことが問題になっている。ごみの量が増えることで焼却処理する量が増え、二酸化炭素が排出され、地球温暖化などの環境問題につながる恐れがある。ごみの量の約7割が家庭ごみであることから、消費者としてごみ削減のためにできることはないかと考え、手軽に始めることのできる方法を探したいと考え、このテーマを設定した。

2. 青森県のごみの現状

まずは、青森県のごみの量の現状である。全国のごみの排出量とリサイクル率の平均値の比較をすると、青森県の1人1日当たりのごみの排出量は1,002g、全国の1人1日当たりのごみの排出量の平均は918gであった。また、青森県のリサイクル率は14.5%、全国のリサイクル率の平均は19.9%であった。ごみの排出量は全国43位、リサイクル率は42位で、どちらもほぼ最下位という結果であった。平成25年から平成30年までの6年間のごみの排出量の推移を調べたところ、本県の1日当たりのごみの排出量は全国の平均値と比べて約100g多いことが分かった。そして、この6年間、ごみの排出量の推移はほぼ横ばいであり、大きくごみの量が減ったとは言い難いということが理解できた。ごみの削減を推進するため、ごみ袋有料化や広報活動などの政策を実行した期間でもあるが、結果につながっていないのではないかと考えた。

3. 検証内容と検証結果

手軽に始めることができるという理由から、自分の家でできることを探した。また、以前読んだ新聞記事に家庭から出る燃えるごみの約半分が生ごみだと書いてあったことを思い出し、今回は生ごみを減らすことにした。

今回、私は「ミニ・キエーロ」というものを使った。「ミニ・キエーロ」は、土と微生物の力で生ごみを分解する家庭用生ごみ処理機である。弘前市で事業参加者を募集していることを「広報ひろさき」で知り、参加した。用意するものはプランターと土28L。畑や庭の土では虫が発生する可能性が高いため、ホームセンターの土を入れることとした。実施計画は4日に1回プランターに生ごみを入れる。手順としては以下のとおりである。

- ① 20cm くらいの穴を掘る。

- ② 200g ～ 400g の生ごみを入れる。
- ③ よく刻み、よく混ぜる（分解が早くなる）。
- ④ 乾いた土を被せる（においを防ぎ、虫が寄ってくるのを防ぐ）。

生ごみを入れたとき、分解されにくい食べ物は、生野菜、卵の殻、骨類であった。逆に分解されやすい食べ物は、調理したものなど水分を多く含んでいるものであった。

続いて検証結果である。活動前、私の家では1か月で150Lの家庭ごみを出していたが、活動後は140Lになり、1か月で10Lほど減らすことができた。また、1人当たりで比べてみると、5人家族であるため2L減らすことができた。



4. おわりに

私がこの活動を通して学んだことは、手軽に続けることができたこと、ごみの量が減ってきているという実感があり、達成感を感じながら飽きずに活動することができたこと、この活動に参加する県民を増やすことで、ごみ問題が改善されるのではないかと考えたことである。

私は今後もごみ問題を改善するため、「ミニ・キエーロ」を広め各家庭で使ってもらえるようにしたい。また、引き続き3Rについて研究し、リデュース・リサイクルにつながるようなものを大切に使うような活動をしていきたい。ごみというものは、生産物を消費する経済活動をする限り、消費者とは切れない関係にある。今後も私は、ごみ問題に目を向けて考え、そして行動する。意識をもつこと、足元から行動することで、ごみ問題という消費者問題の解決に、少しでも寄与できるのではないだろうか。

(蒔苗郁人 弘前中央高等学校)